

## 一般講演 II

座長：大岡 均至（独立行政法人国立病院機構神戸医療センター）

### 9 間質性膀胱炎における漢方薬の使用経験

熊本大学大学院生命科学研究部 泌尿器科学分野<sup>1)</sup>

久留米大学医療センター 先進漢方治療センター<sup>2)</sup>

黒川 慎一郎<sup>1)2)</sup>、薬師寺 和昭<sup>2)</sup>、坂田 雅弘<sup>2)</sup>

沈 龍佑<sup>2)</sup>、亀尾 順子<sup>2)</sup>、駒井 幹<sup>2)</sup>、清川 千枝<sup>2)</sup>

八木 実<sup>2)</sup>、神波 大己<sup>1)</sup>、恵紙 英昭<sup>2)</sup>

#### 【目的】

間質性膀胱炎は、膀胱の非特異的な慢性炎症を伴い、頻尿、尿意亢進、尿意切迫感、膀胱痛などの症状を呈する疾患で、2015年難病指定された。有効な治療法は未だ確立していないが、間質性膀胱炎に対して漢方治療を試みたところ症状の改善を認めた報告する。

#### 【方法】

西洋学的治療のみで疼痛コントロール困難な間質性膀胱炎の1症例に竜胆瀉肝湯エキス製剤、桂枝茯苓丸加薏苡仁エキス製剤、炮附子末を使用した。

#### 【結果】

術前疼痛VASスコア9点、術後1ヵ月より再度排尿後痛を認め、竜胆瀉肝湯、桂枝茯苓丸加薏苡仁エキス内服開始した。疼痛軽減を認め鎮痛薬減量でき、VASスコア1点と改善認めた。体調変動で疼痛認め、炮附子追加処方行った。10ヵ月後に再度膀胱水圧拡張術施行したが、鎮痛剤増量なく経過観察されている。

#### 【考察】

竜胆瀉肝湯は、出典は、薛氏十六種に記載されている方剤である。間質性膀胱炎の病態は、膀胱内炎症と壁の繊維化があり、清熱剤として竜胆瀉肝湯を使用した。瘀血もあると考え桂枝茯苓丸加薏苡仁を併用しその後通導散へ変更、冷えの改善に対して炮附子を追加処方し膀胱の疼痛の改善を認めた。

#### 【結論】

竜胆瀉肝湯、桂枝茯苓丸加薏苡仁、通導散、炮附子の併用は、間質性膀胱炎に対する薬物治療として、安全で有効な選択肢となり得る。